

令和2年度 学校評価実施報告書

学校名（ 七条中 学校）

教育目標	
<p>「自主・自律・共創」</p> <p>～社会や人とのつながりの中で、自らを律し主体的に学び、 共に未来を創造する生徒の育成～</p>	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>今年度はコロナの影響で社会や人とのつながりが思うように進めることができませんでした。密になることを避けての取り組みを精一杯工夫して行事ができたことは自信があります。しかし、ほとんどの行事を一から生み出したので、できる範囲でといいながら真面目な教職員はさらに時間をかけて、映像やリモートを駆使して行事を成功させることを考えたので、達成感もありますが疲労感も否めなかったです。やはり、人は人と直接会って話したり、集団で発表し合ったりすることの方が、自己有用感を高めていけるのだとあらためて思いました。</p> <p>1年生にとっては難しい年となりました。集団での活動が制限された中で、新しい環境で学ぶことや友人関係を構築していくことが上手くいかないことも多かったです。また、上級生の姿を見る機会が少なく、将来の目標を設定できなかったことも残念な年となりました。リモートでは伝わりきらないところがあるので、人は人の直接的な対話によって社会性を学び、自ら律することもできるのだと思います。</p> <p>次年度も大きく変わらないことを想定すると、リモートでいかに社会や人とのつながりを感じることができるか、また自らを高めようと主体的に学ぼうとする環境を教職員がいかに整えるかが課題です。GIGAスクール構想を担いつつ、本校の教職員が一致団結して、生徒につけさせたい力を忘れずに協力、実践していくことを次年度に繋げていきます。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>コロナ禍でほとんどの行事が中止や縮小された中、工夫して学校の行事や授業を一生懸命していただいたこと、本当に感謝しています。リモートでの授業の難しさもあると思いますが、さらにICTを使いこなして、生徒にとってよりよい学校を作っていくよう頑張ってください。精一杯サポートしていきます。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月22日	学校運営協議会
最終評価	3月12日	PTA本部役員

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

「つなぐ・つながる」をもとに、多様な価値観を認め合いながら、主体的に学び合い、新しい価値を創造する力を育む。

具体的な取組

- 具体的な取組
- ・「深い学びを具現する適切な課題設定とふりかえり～パフォーマンス課題を参考に～」を研究テーマに授業改善を進めていく。ここでいう「深い学び」とは、「知識がネットワーク化するプロセス」と定義する。
 - ・教師からの簡単なQ&Aではなく、生徒と生徒のつながりを意識した授業づくりを行う。
 - ・カリキュラムマネジメントの視点から、同教科の縦のつながりや、他教科との横のつながりを意識した授業づくりも行う。
 - ・研究授業や研修を行うと共に、校内公開授業を一人2～3回行い、研鑽していく。
 - ・教科会、教科主任会を中心に、組織的に取り組んで行く。
 - ・外部講師の招へいや、ICT機器の活用を積極的に進め、分かる授業・魅力ある授業づくりを推進する。
 - ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着、思考力・判断力・表現力の育成、主体的な学習態度の育成を目指した「わかる授業」の実践
 - ・個に応じた指導を心がけ、生徒一人一人の力を着実に伸ばす。
 - ・定期テストや学習確認プログラム等の結果をもとに、生徒の学力の実態を分析し、指導計画の工夫・改善をおこない、生徒自らの学ぶ姿勢を培う。
 - ・「総合的な学習の時間」を系統立て、キャリア教育の視点で、自らの人生に向かう思考力や行動力を培う指導を行う。
 - ・家庭学習の習慣化の充実をねらい、生徒の「やる気」を起こさせる課題の開発を行う。
 - ・読書指導（朝読書の充実）・図書館教育の一層の充実（図書室を利用した授業）を図る。
 - ・小学校と連携して「自立する力」「自律する力」の向上と学力向上に取り組む。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学習確認プログラム等の結果。
- ・児童及び保護者アンケートの結果。

該当項目…

- ①中学校の勉強がよく分かること（生）
- ②授業の中で、友達と話し合う場面があること（生）
- ③皆の前で自分の考えを発表したり、書いて伝えたりできること（生）
- ④子どもが家庭で読書をすること（保）
- ⑤学校が、授業と家庭学習をつなげて学力を高めようとし、家庭もその環境づくりに協力すること（保）

授業参観（今年度は難しい）、学級懇談会、個人懇談の際の保護者の意見。

中間評価

各種指標結果

1年ジョイントプログラム総合 今年度は全市平均の数値がでない

国 話す・聞く能力の数値が高い 読むこと・読む能力の数値が低い

数 数学的な技能の数値が高い 数学的な見方や考え方の数値が低い

2年学習確認プログラム 9月

全市平均 総合 0. 2 国 1. 8 社-1. 1 数 2. 7 理-1. 5 英-1. 9

総合で全市平均を上回ることができた。昨年度末より学力が高まっている。わかる授業を目指している研究の成果が現れている。

3年学習確認プログラム

全市平均 総合 6. 0 国 3. 6 社14. 9 数 2. 2 理 6. 0 英 3. 9

総合で全市平均、全教科上回ることができた。学年から学校全体へと教科会を中心に授業改善を進めている効果が現れている。

中学校の勉強がよく分かること

3年 重要度6. 6／7 実現度4. 2／7

2年 重要度6. 6／7 実現度4. 5／7

1年 重要度6. 3／7 実現度4. 5／7

授業の中で、友達と話し合う場面があること

3年 重要度5. 8／7 実現度4. 7／7

2年 重要度5. 9／7 実現度4. 6／7

1年 重要度5. 9／7 実現度5. 0／7

皆の前で自分の考えを発表したり、書いて伝えたりすることができる

3年 重要度5. 9／7 実現度4. 1／7

2年 重要度5. 9／7 実現度4. 1／7

1年 重要度6. 0／7 実現度4. 1／7

子どもが家庭で読書をすること

保護者 重要度5. 6／7 実現度3. 1／7

学校が、授業と家庭学習をつなげて学力を高めようとし、家庭もその環境づくりに協力すること

保護者 重要度6. 2／7 実現度3. 7／7

保護者の意見

コロナの影響で学校が大変な中ですが、学力低下がすごく心配なのでわかりやすい授業・補習等サポートをお願いします。オンライン授業に対応できるようにしていただきたいです。

自己評価

分析（成果と課題）

成果…コロナの影響で授業のスタイルを変えながらも、できる範囲での授業改善が進み学力の向上が見られる。

課題…学び合いや発表を行う授業が少なくなっている。ICTを活用して話し合いや自分の考えを伝えたり、人の意見を聞くことを定着させていきたい。また、選書会を行い、図書室の開館日や本の内容も充実しているので、本を読む習慣を家庭にも呼び掛け定着を図りたい。保護者の皆様もりモート授業に興味があり、万が一の学級・学校閉鎖の時に家で授業を受けられるような要望もある。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>学力の数値を見ると2・3年は向上の傾向があるが1年は厳しいものがある。やはり教科会を中心に学校全体で授業力を高める努力をしないと、生徒の学力は高まらない。さらに研究を中心に授業改善に取り組みたい。やはりICTへの準備は必須である。今、事情で登校できない生徒にリモートで授業を行っているが、通信の問題やパワーポイントがない場合での工夫等課題点も出てきている。全体で共有してICTを活用するレベルを上げることができ少しでもできるように改善していきたい。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>学習確認プログラムの数値の向上、維持。中学校の勉強がよくわかるの項目の実現度のUP。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校評価アンケートの結果で3年生の実現度が下がってきているのが気になりました。コロナの影響もあると思いますが、わかる授業を目指していただきたいのと、PTAも保護者として学校に協力していくことを呼び掛けていきます。ICTを活用した授業について情報がもう少し欲しいと思います。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>1年学習確認プログラム 2月</p> <p>全市平均 総合－4.5 国－6.1 社－5.0 数－1.4 理－3.4 英－6.1</p> <p>総合で全市平均を下回った。年度当初の休校の影響もあり、学級経営や友人関係の構築がスムーズにできなかつたことや、授業規律を徹底することができなかつたことも原因にあげられる。</p> <p>2年学習確認プログラム 2月</p> <p>全市平均 総合 1.4 (+1.2) 国 3.4 (+1.6) 社－1.3 (－0.2) 数 3.7 (+1.0) 理 0.0 (+1.5) 英 0.3.9 (+2.2)</p> <p>総合で全市平均を上回ることができた。1年を通して少しづつ学力が高まっている。わかる授業を目指している研究の成果が現れている。</p> <p>3年学習確認プログラム</p> <p>全市平均 総合 6.2 (+0.2) 国 5.8 (+2.2) 社 14.4 (－0.5) 数 6.1 (+3.9) 理 3.0 (－3.0) 英 2.7 (－1.2)</p> <p>総合で全市平均、全教科上回ることができた。学年から学校全体へと教科会を中心に授業改善を進めている効果が現れている。</p> <p>中学校の勉強がよく分かること</p> <p>3年 重要度 6.6 / 7 (±0) 実現度 4.3 / 7 (+0.1) 2年 重要度 6.7 / 7 (+0.1) 実現度 4.8 / 7 (+0.3) 1年 重要度 6.6 / 7 (+0.3) 実現度 4.1 / 7 (－0.4)</p> <p>授業の中で、友達と話し合う場面があること</p> <p>3年 重要度 5.9 / 7 (+0.1) 実現度 5.0 / 7 (+0.3) 2年 重要度 6.1 / 7 (+0.2) 実現度 5.6 / 7 (+1.0) 1年 重要度 5.5 / 7 (－0.4) 実現度 4.8 / 7 (－0.2)</p> <p>皆の前で自分の考えを発表したり、書いて伝えたりすること</p>
--	--

3年 重要度 5. 9／7 (± 0) 実現度 4. 0／7 (- 0. 1)

2年 重要度 6. 2／7 (+ 0. 3) 実現度 4. 5／7 (+ 0. 4)

1年 重要度 5. 9／7 (- 0. 1) 実現度 4. 0／7 (- 0. 1)

子どもが家庭で読書をすること

保護者 重要度 5. 8／7 (+ 0. 2) 実現度 3. 0／7 (- 0. 1)

学校が、授業と家庭学習をつなげて学力を高めようとし、家庭もその環境づくりに協力すること

保護者 重要度 6. 2／7 (± 0) 実現度 3. 8／7 (+ 0. 1)

自己評価

分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題

成果…年度当初の休校期間や、今までの授業と違う進め方や方法が求められた中、工夫して学力を伸ばすために教科会で情報交換をしたり、学年で宿題や振り返りを強化したことである一定の効果が表れたこと。

課題…授業規律が徹底できなかつたことで、学力が低下した学年もあった。組織としてサポート仕切れなかつたことや、教科会が充実していたにもかかわらず、学習確認プログラムの数値が下がった学年があったのが課題です。

分析を踏まえた取組の改善

教科会の充実は引き続き行いながら、授業規律の徹底、協力・サポート、振り返りを行い成果や課題を研究部で確認する。コロナ禍における授業改善を進めていくこと、研修会やセミナーを通して、情報を収集して活用する。ICTを活用して授業改善、働き方改革を進めていくことを来年進めていきたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

コロナ禍で苦労されている中で学力を伸ばすために、取り組んでいただいていることに感謝しております。一人一台の端末が配布されるので、学力向上に役立ててください。また、情報発信も随時お願いします。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

- ・道徳教育の充実：小中一貫のテーマ『「規範意識の高まり」と「自立・自律の心」「自己有用感」を育む』新学習指導要領の趣旨・内容に対する正しい理解を共有し、具体的実践を展開する。教科化に伴い、適切な評価を行う。
- ・人権教育の充実：学校教育のあらゆる場面で「命を大切にし人権を尊重する心」を育む。人権学習プログラムの充実を図る。
- ・自己有用感の育成： 小学校や地域と協働し、教育課程の中で全ての子どもの自己有用感を育む予防的生徒指導に取り組む。

具体的な取組

- ・道徳教育推進教師を中心に道徳指導体制を充実させ、すべての教職員が道徳授業の開発にかかわり発達段階に応じて指導内容を厳選していく。また、研究授業や研究協議の機会を多く設定し、重点的に研究を進める。
- ・小学校と連携し、9年間を見通した系統的な人権学習を推進する。
- ・学校生活において、生徒自身の集団生活における規律や規範意識、礼儀、礼節を高めることを目的とした生徒会活動を推進する。
- ・生徒会活動や学級活動等における話し合い活動を通して自主・自律・自治の力を高め、行事の企画や運営・参画を通じて学校や学級への所属意識を高める。
- ・望ましい人間関係づくりの場を意図的に提供することで、すべての生徒の自己有用感を育み、予防教育的生徒指導を推進する。
- ・LD等支援の必要な生徒や不登校生徒とその保護者への組織的な働きかけを行うとともに、総合育成支援教育の観点からも幅広く対応する。
- ・キャリア教育の視点で教育活動全般をつなぎキャリア発達の充実を図るための研修会を開催する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・児童及び保護者アンケートの結果。
 - ①ルールを守り、マナーを心がけること。(生)
 - ②自分から進んで気持ちのよい挨拶をすること。(生)
 - ③七条中エリア4校が連携して、「あいさつ運動」などの交流を通じて児童・生徒の豊かなつながりを築こうとしていること。(保)

各種指標結果

- ・ルールを守り、マナーを心がけること
3年 重要度6. 4／7 実現度5. 1／7
2年 重要度6. 6／7 実現度5. 4／7
1年 重要度6. 4／7 実現度5. 2／7
- ・自ら進んで気持ちのよい挨拶をすること。
3年 重要度5. 8／7 実現度4. 7／7
2年 重要度6. 1／7 実現度5. 2／7
1年 重要度6. 1／7 実現度4. 8／7
- ・七条中エリア4校が連携して、「あいさつ運動」などの交流を通じて児童・生徒の豊かなつながりを築こうとしていること

保護者 重要度5. 9／7 実現度4. 3／7

自己評価	分析（成果と課題）
	「成果」・・・2年生の数値が上昇したこと。 「課題」・・・例年上級生の数値が一番高かったが、3年生の数値が下がったことと、中学校生活に慣れていない1年生の数値が低いのは、登校できなかった時期の影響もあり、人間関係でのトラブルが多い。
	分析を踏まえた取組の改善 この状況で、学校全体の行事が行われるか未定であるが、上級生が活躍する場を少しでも作り、自己有用感を高めたり、上級生の良い姿を下級生に見せられるように、できるだけ準備をしていく。
学校関係者評価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 アンケートの重要度、実現度を0. 1ポイントでもアップさせる。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
・ルールを守り、マナーを心がけること	
3年 重要度 6. 4／7 (± 0)	実現度 5. 3／7 (+ 0. 2)
2年 重要度 6. 7／7 (+ 0. 1)	実現度 5. 8／7 (+ 0. 4)
1年 重要度 6. 5／7 (+ 0. 1)	実現度 4. 8／7 (- 0. 4)
・自ら進んで気持ちのよい挨拶をすること。	
3年 重要度 5. 8／7 (± 0)	実現度 5. 0／7 (+ 0. 3)
2年 重要度 6. 3／7 (+ 0. 2)	実現度 5. 3／7 (+ 0. 1)
1年 重要度 5. 9／7 (- 0. 2)	実現度 4. 6／7 (- 0. 2)
・七条中エリア4校が連携して、「あいさつ運動」などの交流を通じて児童・生徒の豊かなつながりを築こうとしていること	
保護者 重要度 5. 9／7 (± 0) 実現度 4. 6／7 (+ 0. 3)	
自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	「成果」・・・2、3年生の数値が上昇したこと。 「課題」・・・1年生の数値が低くなかったこと。登校できなかった時期の影響もあり、人間関係でのトラブルが多い。また規範意識や授業規律に対しての意識が低く、学力にも影響が出てきている。 取り組みには前向きな学年なので、前向きなパワーを学力向上に生かしていきたい。 全校体制で集会や取り組みができなかったので、上級生の格好良い所を下級生に伝えて自己有用感を高めていく取り組みができるように工夫をしていきます。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	リモートを活用して各学年の取り組みを発表することができたが、やはり全校で集まって姿を見ながら行事ができることが重要だと感じました。密を避けることを工夫しながら、全校生徒が一同に介して活動できる取り組みで、上級生の逞しい姿、憧れる姿を見て伝統を引き継いでいくことの重要さが今年でわかりました。次年度は、リモートで工夫をしつつ、全校での取り組みがいつできてもいいように準備をしていきます。
学校関係者による意見・支援策	学校関係者による意見・支援策
	あいさつ運動も縮小され、生徒会・児童会のみになり、あいさつの数値が下がったことが残念です。コロナ禍においての影響が出ていることを感じます。参観で道徳の授業も見られなかつたのが残念でした。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

心身の健康に関心を持ち、生涯にわたって健康を保持増進できる自己管理能力を身につける。

具体的な取組

具体的な取組

- (1) 健康観察により生徒の欠席状態や心身の健康状態について把握し、必要に応じてスクールカウンセラーや外部機関との連携を行い、早期に対応する。
- (2) 緊急時に迅速に対応できるよう、食物アレルギーの教職員研修を実施する。
- (3) 生徒保健安全委員会による常時活動（アルボースとトイレットペーパーの補充）と、啓発活動を指導する。
- (4) 保健だよりを月1回以上発行する。トピック（例：睡眠、食事、運動、生活リズム、SNSの使用等について等）は健やか教育係のメンバーがその時々の生徒の実態から吸い上げ、執筆は養護教諭が行う。配布時に学級担任が、ポイントを生徒に説明する。
- (5) 性教育を各学年が適切なテーマで行えるよう、サポートする。指導案の作成は各学年が行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・児童及び保護者アンケートの結果。
 - ①子どもと一緒に食事（朝・夕）をとること（保）
 - ②子どもが8時間程度の睡眠をとること（保）
 - ③パソコンやゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使うときは、家人と決めた約束により使用すること。（生）
- ・生徒会保健安全委員会による啓発活動を行う。
- ・食物アレルギーのある子どもの学校生活を安心安全なものにするため、研修の機会を充実させる。
- ・健康観察により生徒の欠席状況や心身の健康状態について把握し、必要に応じてスクールカウンセラーと連携し早期に対応する。

各種指標結果

子どもと一緒に食事（朝・夕）をとること

保護者 重要度6. 3／7 実現度5. 2／7

子どもが8時間程度の睡眠をとること

保護者 重要度6. 1／7 実現度4. 0／7

パソコンやゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使うときは、家の人と決めた約束により使用すること

3年 重要度5. 4／7 実現度3. 6／7

2年 重要度5. 9／7 実現度4. 4／7

1年 重要度5. 7／7 実現度4. 4／7

自己評価

分析（成果と課題）

「成果」・・・昨年度に続いて、生徒会や保健室から健康管理について周知徹底していたので、流行病は防げている。

「課題」・・・学校閉鎖の影響もあり、親と過ごす時間がプラスにもなった反面、学校が始まるリズムが崩れて登校できないケースもあった。また、昨年度と同様ゲーム依存で昼夜逆転し登校できなくなっている生徒もいる。

分析を踏まえた取組の改善

家庭との協力が必要なので、例年通り保健だよりを配布して家庭訪問や家庭連絡で休んでいる生徒との連絡を常時取る。依存の怖さを授業や講習等で広く周知し啓発活動を行っていく。睡眠については学習との兼ね合いもあり、本人や保護者も8時間の睡眠を確保することは難しいと思われるが、成長期での睡眠の大切さや健康面での必要性を呼び掛けていく。ICTを有効に活用して、不登校生徒へのリモート参加を実現してみたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

各項目の重要度・実現度の数値を0, 1ポイントプラス。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

家庭でスマートフォンを持たせているが、使い方やルールを教えきれないし、子供のほうが使い方を知っているケースがあり、トラブルになることがあると聞いている。正しい使い方を学校やPTA活動を通して学ぶことも考えていいと思います。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
子どもと一緒に食事（朝・夕）をとること	保護者 重要度 6. 3 / 7 (± 0) 実現度 5. 0 / 7 (- 0. 2)
子どもが8時間程度の睡眠をとること	保護者 重要度 6. 2 / 7 (+ 0. 1) 実現度 3. 9 / 7 (- 0. 1)
パソコンやゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使うときは、家の人と決めた約束により使用すること	3年 重要度 5. 3 / 7 (- 0. 1) 実現度 3. 6 / 7 (± 0) 2年 重要度 5. 7 / 7 (- 0. 2) 実現度 4. 8 / 7 (+ 0. 4) 1年 重要度 5. 6 / 7 (- 0. 1) 実現度 4. 4 / 7 (± 0)
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>「成果」・・・前期に続いて、生徒会や保健室から健康管理について周知徹底（換気やチャイムを利用しての呼びかけ）していたので、流行病は防げている。</p> <p>「課題」・・・外出自粛時は家庭で見られていたが学校が始まると食事や睡眠の実現度の数値が低くなっている。また、以前ゲーム依存で昼夜逆転し登校できない生徒もいる。次年度は食育放送の呼びかけや家庭への資料配付、HP掲載なども力をいれていく。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>スマートフォンのトラブルを防ぐために、保護者も参加できる講演会を1年生の早い段階で行う。睡眠や食事の大切さもあらためて家庭に発信しながら、家庭での協力体制を促していく。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校だけの問題ではないので、地域や保護者からも支援していきます。保護者向けの講習会が開催できなかったので、次年度はリモートでも開催できるように協力していきます。

(4) 学校独自の取組

重点目標

「規範意識」「自立・自律の心」「自己有用感」を高め、小中連携を通して校下の児童・生徒の心を育む。

具体的な取組

具体的な取組

年4回（今年度は難しい）の小中合同研修会の開催と教職員の交流。

- ・「自立・自立の心」を育む授業を追求し、小中交流を通して授業改善を図る。

共通の授業像を掲げ研究を推進する。

- ・「自己有用感」

小中縦割り清掃活動を通して、役割を果たす力や貢献する力を育むとともに、異年齢の好ましい関係作りを進める。

- ・「規範意識」 あいさつを生徒が自覚的に実践し、人間関係作りや社会参画に生かせるようにする。

児童会と生徒会とで交流。リーダーの育成と相互理解を図る。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・小中4校の学校評価共通項目の分析結果。

- ・小中合同の取り組んでいる「七条エリアのルールとマナー」の分析結果。

- ① 児童・生徒が「子どもの本気」を自覚し、実践できるようにしている。（生）
 - ② 自分がした事で人に感謝してもらえること（生）
 - ③ 七条中エリア4校が連携して、ルールやマナーの大切さを指導していること（保）
 - ④ 機会あるごとに、保護者・地域の大人の方に、「大人の本気」について呼びかけようとしている。（保）
- ・小中主任会や小中合同の教職員の取り組み状況。
 - ・学校からの情報発信状況。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・小中4校の学校評価共通項目の分析結果。

- ・小中合同の取り組んでいる「七条エリアのルールとマナー」の分析結果。

- ① 児童・生徒が「子どもの本気」を自覚し、実践できるようにしている。（生）
 - ② 自分がした事で人に感謝してもらえること（生）
 - ③ 七条中エリア4校が連携して、ルールやマナーの大切さを指導していること（保）
 - ④ 機会あるごとに、保護者・地域の大人の方に、「大人の本気」について呼びかけようとしている。（保）
- ・小中主任会や小中合同の教職員の取り組み状況。
 - ・学校からの情報発信状況。

各種指標結果

学校評価共通項目の「家庭学習 1H 以上」

3年 重要度6. 1/7 実現度4. 0/7

2年 重要度5. 9/7 実現度3. 9/7

1年 重要度5. 8/7 実現度4. 2/7

「ルールを守り、マナーを心がけること」

3年 重要度6. 4/7 実現度5. 1/7

2年 重要度6. 6/7 実現度5. 4/7

1年 重要度6. 4/7 実現度5. 2/7

七条中ブロック 4 校が連携して、いじめや暴力を許さない学校づくりに努めていること

保護者 重要度6. 7/7 実現度4. 0

自分から進んで気持ちの良いあいさつをすること

3年 重要度5. 8/7 実現度4. 7/7

2年 重要度6. 1/7 実現度5. 2/7

1年 重要度6. 1/7 実現度4. 8/7

保護者 重要度6. 6/7 実現度5. 2/7

「自己有用感」

保護者 重要度5. 9/7 実現度4. 3/7

- ・小中主任会等について、校長会月1回開催され、その内容を受けて教務主任会を中心に各主任会を必要に応じて実施。

自己評価

分析（成果と課題）

「成果」・・・校長、教頭、教務では小中の連携ができている。

「課題」・・・コロナ禍に置いて、小中連携がほぼストップしている。新しい小中連携の形（リモートを駆使）を模索し、小中連携のメリットをそれぞれの教職員に広げる必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

人の移動を極力控える中で、小中連携をどうのよう進めていくのか。昨年度は1.2年生全員が校区の小学校に登校してあいさつ運動を行ったが、コロナ禍において縮小してもできればと考えている。上級生や高学年が良いお兄ちゃんやお姉ちゃんになって、下級生や低学年に模範を示すことはとても重要で、この取り組みが少ない状況での自己有用感の高め方を考えいかなければならぬ。リモートの活用を検討している。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

アンケートの重要度、実現度を0. 1 ポイントアップさせる。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

行事が制限される中で、集団で培う力、自分を伸ばしていく力をどのように育てていくか。難しい状況だからこそ、基本に立ちかえって大人の本気、子供の本気を率先して実践していくましょう。

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

学校評価共通項目の「家庭学習 1H 以上」

3年 重要度 6. 3／7 (+0. 2) 実現度 4. 6／7 (+0. 6)

2年 重要度 6. 1／7 (+0. 2) 実現度 4. 3／7 (+0. 4)

1年 重要度 5. 6／7 (-0. 2) 実現度 3. 7／7 (-0. 5)

「ルールを守り、マナーを心がけること」

3年 重要度 6. 4／7 (±0) 実現度 5. 3／7 (+0. 2)

2年 重要度 6. 7／7 (+0. 1) 実現度 5. 8／7 (+0. 4)

1年 重要度 6. 5／7 (+0. 1) 実現度 4. 8／7 (-0. 4)

七条中ブロック 4 校が連携して、いじめや暴力を許さない学校づくりに努めていること

保護者 重要度 6. 7／7 (±0) 実現度 4. 3 (+0. 3)

自分から進んで気持ちの良いあいさつをすること

3年 重要度 5. 8／7 (±0) 実現度 5. 0／7 (+0. 3)

2年 重要度 6. 3／7 (+0. 2) 実現度 5. 3／7 (+0. 1)

1年 重要度 5. 9／7 (-0. 2) 実現度 4. 6／7 (-0. 2)

保護者 重要度 6. 6／7 (±0) 実現度 5. 3／7 (+0. 1)

「自己有用感」

保護者 重要度 5. 9／7 (±0) 実現度 4. 6／7 (+0. 3)

・小中主任会等について、校長会月 1 回開催され、その内容を受けて教務主任会を中心に各主任会を必要に応じて実施。

自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題 「成果」・・・校長, 教頭, 教務では小中の連携ができている。 「課題」・・・コロナ禍に置いて、小中連携がほぼストップしている。新しい小中連携の形（リモートを駆使）を模索し、小中連携のメリットをそれぞれの教職員に広げる必要があるが、中々新しい形に進めていないのが現状である。中には、小中連携のメリットを感じず、手間がかかるという認識がある。
	分析を踏まえた取組の改善 小学校とのつながりを教諭レベルで摺り合わせることできたら、行事を活用して児童・生徒が達成感や自己有用観を高めることができるので、時間を作っていく必要性があり、教職員にもメリットを理解してもらえるように伝えていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 小中学校が共通の規律や取り組みがありながら、独自の学校の良さがあるのが理想です。小中連携を通して中学生が活躍できる場をもっと期待しています。コロナ禍で難しい状況ですが、協力していきますのでよろしくお願いします。

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標

教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。

具体的な取組

- ・学校行事を精選する。
- ・会議を精選、効率化しペーパレス会議を導入する。
- ・電話応対時間を平日午後7時までとし、以降は留守番電話に切り替える。
- ・働き方改革に関する研修を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教職員の勤務時間
- ・年休取得率

中間評価

各種指標結果

教職員の時間外勤務の平均を昨年度（4月～10月）と比較すると

4月 -30時間 5月 -41時間 6月 3時間 7月 23時間 8月 7時間

9月 -1時間 10月 5時間 今年度はコロナの影響で昨年度との比較は難しい。

自己評価

分析（成果と課題）

「成果」学校閉鎖時に在宅勤務を有効に活用し、学年全体の仕事を分散することができた。

「課題」例年とは違う動きになったことや、家庭に映像で配信する技術に苦労したり、行事等も

ソーシャルディスタンスをとりながら活動することの準備が多忙の原因となった。

分析を踏まえた取組の改善

真面目な教職員が多いので、生徒のためにと考えると、できる範囲の中で精一杯行事を成功させようとするため、より時間がかかってしまう。できることの線引きを早めに管理職が示せるように、各方面と情報を共有する。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

昨年度よりも時間外勤務の時間を縮減することと、個人の時間外勤務の縮減

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

学校外のことと学校に任せっぱなしにならないようにする。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
教職員の時間外勤務の平均を昨年度（11月～2月）と比較すると	
11月 -3時間 12月 +3時間 1月 -1時間 2月 -3時間	
自己評価	今年度はコロナの影響で昨年度との比較は難しい。
分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題	<p>「成果」GIGA 端末を活用して、授業を行い効率良く時間を活用することができた。</p> <p>「課題」前期同様、行事も新しい形で取り組んだため、ソーシャルディスタンスをとりながら活動することの準備が多忙の原因となった。リモートはデジタル機器とは相性がいい反面、準備や通信に影響があると、準備が無駄になるので入念な打ち合わせが必要となる。過渡期ではあるが時間外勤務の縮減にはまだ時間が必要である。</p>
分析を踏まえた取組の改善	過渡期であるので、ICTには積極的にトライして、実績や経験を積むことや、情報の共有やスキルアップを図りながら効率良くしていく必要がある。今できることをやりつつ、未来に向けた経験をしっかり積む必要があるので、情報公開・共有・発信を徹底する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 働き方改革を進めていく上で、無駄を省くことは大切ですが、学校が大切にしなくてはいけない生徒との時間を忘れないようにしてください。また、コロナ禍においても、地域・保護者が学校のサポートができるように連携していきます。